

平成21年度の鳥取県立博物館

1 総 論

県民サービスを一層向上させるため、今年度から企画展開催中の土曜日・日曜日及び祝日の閉館時間を、通常の午後5時から2時間延長して午後7時とした。

また、各課横断的な「広報ワーキングチーム」を設置し、館全体で広報戦略を見直して、より一層地域に効果的に情報が浸透するよう努めた。

自然、人文、美術の各分野で実施した計5本の企画展では、体験型の科学館的展覧会やイメージキャラクターの作成、大阪市内のアートギャラリーでの巡回展開催等、新たなアプローチにも挑戦した。

更に、山陰海岸ジオパークについて、広く県民の理解を深めるため、代表的なジオスポットを学ぶ講座を開催するとともに、山陰海岸学習館について、山陰海岸ジオパークの拠点施設として必要なリニューアルを開始した。(平成22年4月24日リニューアル・オープン)

(1) 組織

緊急雇用創出事業(商工労働部所管)として、博物館資料の整理や電子化等を進める作業を補助する非常勤職員を4名雇用した。

(2) 資料の収集・調査研究

鳥取市佐治町の辰巳峠から、国内最古の「ヒラタドロムシ科昆虫の化石」を発見し、広く紹介することで、植物化石産出層として天然記念物に指定されている辰巳峠の再認識につながった。

また、収蔵資料の調査により、松葉蟹について記載された古文書を発見し、江戸時代中期に贈答品として使用されたことを確認するとともに、岩美町内の旧家から安土桃山時代の古活字本を収集し、これらの資料について、企画展「新収蔵品展」の中で広く紹介した。

美術部門では企画展に関する調査を行うとともに、鳥取県の美術に関する調査を継続し、沖一峨「花鳥図」等の作品を新たに収集した。

(3) 展示

企画展5回(自然系1回、人文系1回、美術系3回)を開催し、博物館全体の事業に10万人を超す来館者があった。自然系では、久しぶりに数学をテーマにした企画展を開催し、抽象的で難解な印象のある数学を様々な体験型の展示によって紹介した。人文系では、平成以降に新たに収集した収蔵品の中から学芸員が選りすぐった考古・歴史・民俗部門の100件の資料を展示した。美術系では、京都の日本画、ベルギーの近代絵画、県出身で日本を代表する陶芸家といった三つの異なったテーマの展覧会を開催し、来館者の多様な関心に応えた。山陰海岸学習館では、『山陰海岸ジオパーク構想』を踏まえ、山陰海岸ジオパークの貴重な地形や地質、そこにくらす生きものについてわかりやすく紹介する山陰海岸ジオパークの拠点施設として、全面的な改修を行った。(平成22年4月24日にリニューアルオープン)

(4) 教育普及

県民の生涯学習を支援するため、館内外での講演会、ワークショップ、観察会などを開催した。

巡回展、移動博物館・移動美術館、出張美術教室は県下22会場で、普及講座や講演会は年間を通して119回開催し、延べ4,223人の参加があった。

中でも美術の普及講座では、「毎週土曜はアートの日！」とし、毎週土曜日に美術に関する事業を実施し、アートにふれあう機会を充実させた。

また、過去の博物館年報について電子化を行い、博物館のHP中に全て公開した。

(5) 来館者サービス

平成21年度から条例改正のうえ、開館時間を次のとおり延長した。

■ 4月1日～10月31日の企画展示の期間中の土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日は午前9時～午後7時

午後4時以降の全入館者に占める時間帯別割合では、各時間帯とも平成20年度の試行期間より増えていることから、今後、開館時間延長の定着により来館者サービスは一層向上するものと考えている。

2 各課の概況

(1) 総務課

- ・空調設備改修工事実施（3カ年）3年目
- ・収蔵スペース確保事業（3カ年）1年目
- ・ホール照明のエコ改良（照度アップと省エネ）
- ・歴史民俗展示ケース更新
- ・第1展示室及び第2展示室のタイル張替え

(2) 学芸課

●自然担当

- ・企画展の開催：「挑戦！頭脳パズルボックス」
- ・棚田耕吉植物標本整理事業（3カ年）1年目

●人文担当

- ・企画展「新収蔵品展－歴史系学芸員のオススメ100選－」
- ・歴史民俗常設展示室改善充実事業
- ・鳥取県の歴史民俗事象調査事業
- ・藩政資料整備事業（14カ年）5年目
- ・遠山正瑛資料保管事業（終了）
- ・収蔵資料修復事業（刀剣・絵図・書画）
- ・展示室設備改修事業（展示ケースを新設）

：改修作業にともない平成22年3月16日から3月31日まで、歴史・民俗常設展示室を閉室

●普及担当

- ・各種広報活動の実施
- ・公式HPの管理運用
- ・移動博物館、移動美術館の募集及び調整
- ・学校教育支援事業の開催
- ・ニュースレター「MUSEUM PRESS 鳥取県立博物館ニュース」No. 8, 9の発行

●山陰海岸学習館

- ・山陰海岸ジオパークの地形・地質を学ぶ野外観察会や自然講座の開催
- ・展示リニューアル事業の開始

(3) 美術振興課

- ・企画展の開催：「京の日本画」

「ベルギー王立美術館コレクション

ーベルギー近代絵画のあゆみー 印象派からフォーヴへ」

シリーズ 鳥取の表現者 File.01「前田昭博 白瓷の造形」

企画展「京の日本画」では、伝統と革新の間で揺れ動きながら展開した明治以降の京都を中心とした日本画の変遷と併せて、京都で活躍した鳥取ゆかりの日本画家の作品も紹介した。また、企画展「印象派からフォーヴへ」では、鳥取県で初公開のベルギー王立美術館の優品を通して、あまり認知されていないベルギーの近代絵画のあゆみを紹介した。

従来の「現代の表現 鳥取」と「共同企画・郷土作家展」を「鳥取の表現者」のシリーズ展に一本化し、その第一弾として陶芸家・前田昭博を採り上げた。また、鳥取県立博物館での展覧会開催後、大阪・アートコートギャラリーと共催で巡回展示を行った。

- ・2階近代美術展示室では、「収蔵品にみる 三国志」、夏休み企画「対決！ホンモノ対アート」、「山を描いた画家 伊谷賢蔵」、「鳥取ところどころ モティーフとしての郷土」、「若き日の鳥取の画家たち」の収蔵作品を中心に構成した5本のテーマ展示を開催した。
- ・1階美術展示室では展示室を4つの区画に分けて、鳥取県を代表する江戸時代から現代までの、近世絵画、日本画、洋画、版画、工芸を年間を通して紹介する常設展示を開催した。
- ・昨年度に引き続き、年間の毎週土曜日に美術普及活動を展開する「毎週土曜はアートの日！」（サタデーアートフィーバー）を実施し、ワークショップ、アートセミナー、アートシアター、ギャラリートーク、企画展関連事業等を通して美術の教育普及活動の充実に努めた。